

関連するSDGs



# E 地球温暖化対策

**基本的な考え方** 地球温暖化問題が年々深刻さを増す中、CO<sub>2</sub>を含む温室効果ガスの排出量削減は喫緊の課題となっています。地球温暖化対策を環境経営の最重要課題と捉え、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減に積極的に取り組むとともにサプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量削減に努めています。

## CO<sub>2</sub>排出量の削減

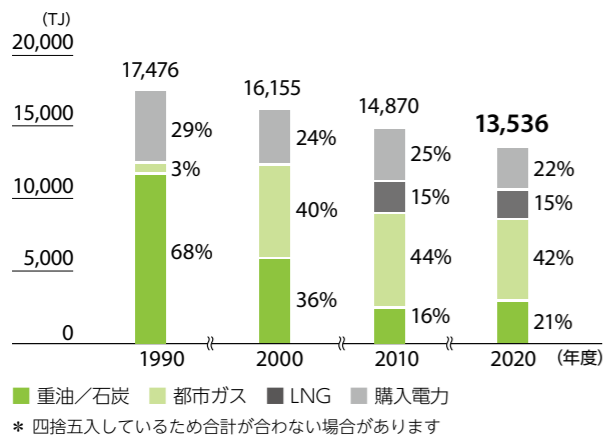
当社の事業活動から排出される温室効果ガスの大部分を生産活動に伴うCO<sub>2</sub>が占めており、事業所・工場などの生産部門では省エネルギー化と再生可能エネルギーの利用拡大によるCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。また、当社は荷主の立場から、物流部門においても製品輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

### 生産部門での取り組み

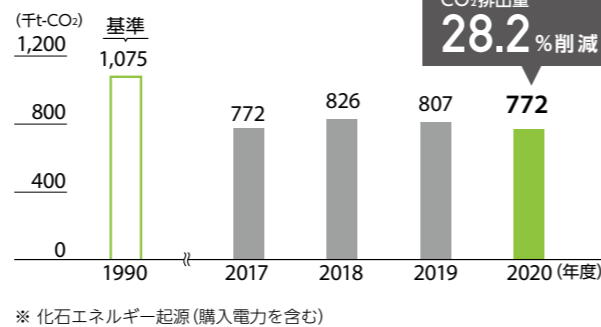
2020年度の「エコチャレンジ020」では、生産部門のCO<sub>2</sub>排出量を1990年度比24%削減することを目標に設定し取り組んできました。省エネルギー化を進めた結果、CO<sub>2</sub>排出量は772千t-CO<sub>2</sub>、1990年度比で28.2%の削減となり目標を達成しました。

今後も2030年度の目標達成に向けて、さらなるCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいきます。

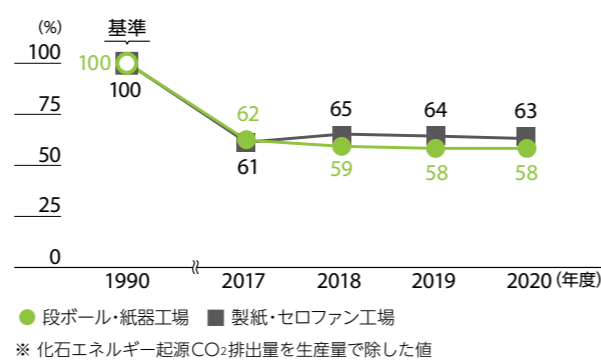
### 【化石エネルギー投入量および燃料別比率の推移】



### 【生産部門のCO<sub>2</sub>排出量の推移】



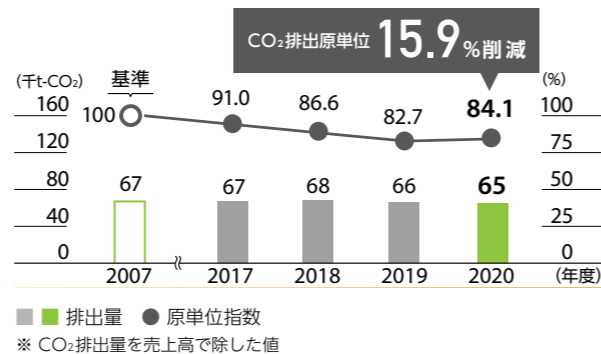
### 【生産部門のCO<sub>2</sub>排出原単位\* 指数の推移】



### 物流部門での取り組み

2020年度の「エコチャレンジ020」では、物流部門のCO<sub>2</sub>排出原単位を2007年度比14%削減することを目標に設定し取り組んだ結果、2007年度比15.9%の削減となり目標を達成しました。製品輸送においては、輸送ルートの見直しや積載効率向上による配送車両の削減、モーダルシフトなどを検討しながら輸送の適正化を図り、さらなる輸送効率の改善を進めていきます。

### 【物流部門のCO<sub>2</sub>排出量と原単位\* 指数の推移】



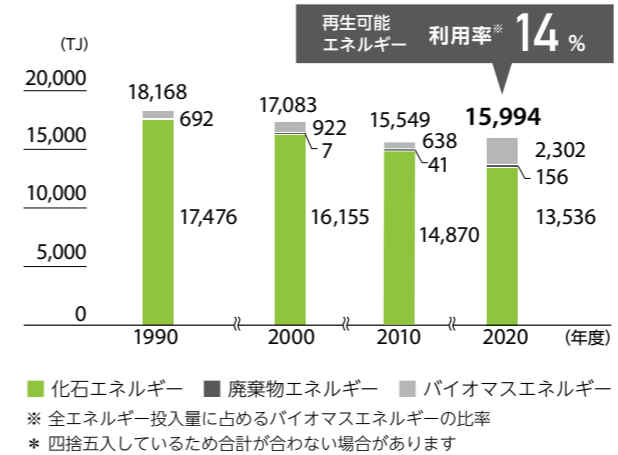
## 再生可能エネルギーの利用促進

地球温暖化対策とともに、エネルギーの多様化、資源の有効利用の観点から、太陽光発電設備やバイオマスボイラを積極的に導入し、再生可能エネルギーの利用拡大に取り組んでいます。

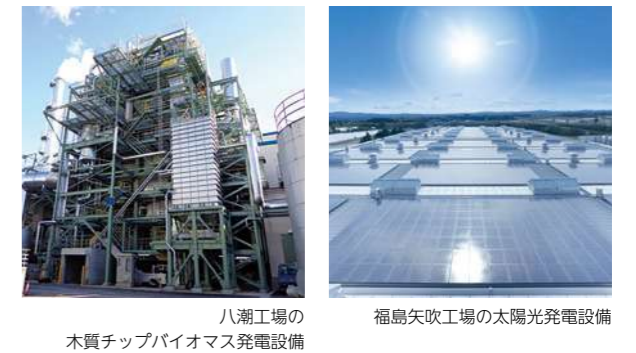
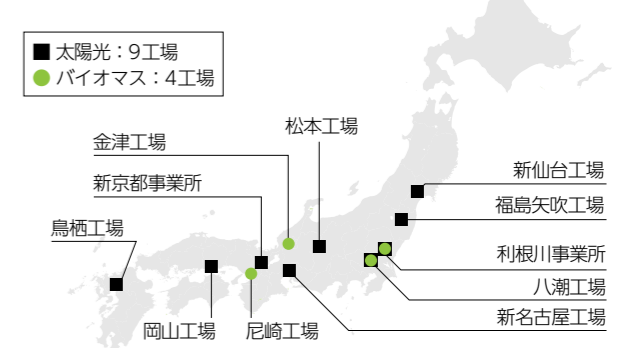
太陽光発電設備は設置する地域や工場の特性を考慮して導入を進めており、2020年度には9工場で年間5,229千kWhを発電しました。

また、製紙工場ではバイオマスボイラの燃料として建設廃材由来の木質チップや工場の生産過程で発生する製紙スラッジなどのバイオマス燃料を有効活用することで、化石燃料の使用量を削減しています。その結果、2020年度の再生可能エネルギー利用率は14%となりました。当社は今後も取り組みを続け、再生可能エネルギーの利用比率を高めていきます。

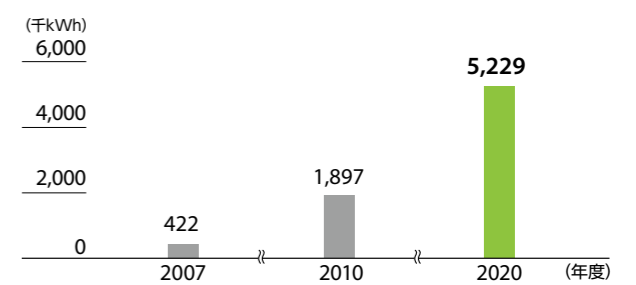
### 【全エネルギー投入量の推移】



### 【再生可能エネルギーの導入拠点】



### 【太陽光発電の総発電量の推移】

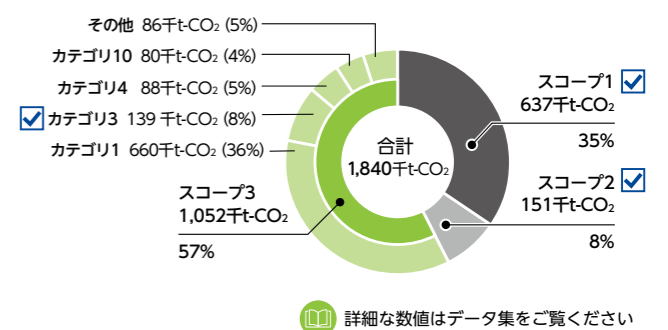


## サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量算定の取り組み

サプライチェーン全体の温室効果ガスの排出削減に取り組むため、スコープ1・2・3\*排出量を把握しています。2020年度の総排出量は1,840千t-CO<sub>2</sub>となり、そのうちスコープ1・2は全体の43%、スコープ3は全体の57%となりました。今後はグループ全体のスコープ1・2・3排出量の把握に取り組んでいきます。

\*スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）  
スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

### 【サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量（2020年度）】



詳細な数値はデータ集をご覧ください